研究ノート

ニューツーリズム研究としての吉方旅行研究の枠組み試論

——特色がない町でもツーリストディスティネーションになれる——

A Tentative Research Framework of *Kippo Ryoko* (Lucky Tourism) Study as a New Tourism Study

身玉山宗三郎*
MITAMAYAMA Sozaburo

Kippo Ryoko (Lucky Tourism) is a type of tourism practiced in Japan to activate one's *Ki* to get better luck. *Kippo Ryoko* (Lucky Tourism) Study is yet to be recognized as a New Tourism Study. This article tries to place *Kippo Ryoko* (Lucky Tourism) Study as a field of New Tourism Studies and to suggest a tentative research framework. As a conclusion, *Kippo Ryoko* (Lucky Tourism) Study is suitable as a field of New Tourism Studies and has potential to contribute rural development for areas where there are few tourism resources.

キーワード：吉方旅行（Lucky Tourism）、吉方位（Lucky Destination Direction）、ニューツーリズム（New Tourism）、地域振興(Rural Development)

1. 序論

(1) 本稿の目的

吉方旅行ないし吉方位旅行とは、「旅行者が自分自身の気 [1]を知り、その気と相性のよい気を持った方位へ行くことで、旅行者の運気をあげることができる旅行 [2]」である。

本稿は吉方旅行をニューツーリズムの一分野として位置付け、研究枠組みを提示することを目的とする。

(2) 先行研究の概観

一般の検索サイトで「吉方旅行」をキーワードとして検索すると、約 86,800 件のヒットがあり、同様に「吉方位旅行」では約 7,690,000 件のヒットがあり、内容は、吉方旅行ないし吉方位旅行の需要を前提として、方法や効果を喧伝するものが多い。

ところが、学術論文検索サイトで「吉方旅行」、「吉方位旅行」をキーワードとして検索すると、論文の形の先行研究は管見の限りでは存在しない。吉方旅行の基礎となる「九星気学」で検索すると若干の研究論文が見つかるが建築学のものである。「方位」で検索すると GPS 技術に関する研究などがヒットする。つまり、吉方旅行ないし吉方位旅行についての観光学の先行研究は管見の限りでは存在せず、言い換えると、吉方旅行ないし吉方位旅行を研究するためには、研究枠組みの構築から始めなければならないのが現状である。

そこで本稿では吉方旅行ないし吉方位旅行を観光学におけるニューツーリズムの一分野として位置付け、研究枠組みを提示することとした。筆者の専門分野の一つは法社会学であるため、本稿は観光学に社会学的にアプローチする立場をとっている。なお、観光学の研究対象である「観光」概念については、検討済みである（身玉山, 2018 p.12）[3]。

以下、本項では、吉方旅行ないし吉方位旅行を指す用語として単に「吉方旅行」を用いる。

2. 吉方旅行はニューツーリズムに含まれるか

(1) ニューツーリズムの概念

ニューツーリズムの定義について、観光庁では、「ニューツーリズムについては、厳密な定義づけは出来ないが、従来の物見遊山的な観光旅行に対して、「テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた新しいタイプの旅行を指す。」としている（国土交通省観光庁, 2010 p.2）。

* 大阪観光大学観光学部/法社会学

また、新たな旅行需要や旅行スタイルを触発する旅行商品化への取り組みもニューツーリズムの概念に含めている（JTB 総合研究所, 2021 p.262）。

ほかにも「ニューツーリズム」はわが国特有の用語で厳密な定義はない（社会経済再生本部, 2007 p.92）とされ、相当広義のものといえそうである。

但し、顧客ニーズを踏まえ、地域の特性を生かした参加型・体験型・学習型など、多様な「ニューツーリズム」の可能性がある（社会経済再生本部, 2007 p.95）とされ、ニューツーリズムに求められていることは、単に旅行カテゴリーの多品種化を目的とするものではなく、地域の特性を生かした地域発の着地型旅行であり、地域活性化に貢献することを重視して（中村, 2019 p.127）地域振興の要素を加味してやや狭く定義される場合がある[4)]。

実際、ニューツーリズムには、地域貢献ないし地域活性化等の地域振興要素があることを前提として議論する研究が多い[5)]。

(2) マスツーリズムの対抗概念としてのニューツーリズムと吉方旅行の位置付け

ニューツーリズムは、マスツーリズムに対する概念で、スモールツーリズムとか、オルタナティブツーリズムとかサステイナブルツーリズムという概念と前後して生み出されたとされる（中村, 2019 pp.128-129）。これらの概念はマスツーリズムは観光地への貢献度が低かったという反省（中村, 2019 p.128）に基づいている。その観点からは、ニューツーリズムを地域振興の要素を加味してやや狭く定義づけすることは妥当といえる。

これに対して、「体験型観光や着地型観光をニューツーリズムと称していかにも特別な新しい観光のように扱っているものも散見されるが、内容を詳しく見てみると決して新しくないものが多く、このニューツーリズムという用語は、いわゆるバズワードであって実質的な内容を持たないから、今後は使われなくなっていくだろう。」（島田, 2020 p.214）として概念自体を批判する立場がある。

しかしながら、ニューツーリズムは、上記のとおり対抗概念が存在し、定義づけの試みが行われているのであって、いわゆるバズワードの段階を超えていると考えられ、現にニューツーリズムという概念を前提とした研究が多数行われている。

(3) ニューツーリズムの種類と吉方旅行の位置付け

ニューツーリズムの種類としてしばしば挙げられるのは、エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光、長期滞在型観光（ロングステイ）である[6)]。文化観光、ヘルスツーリズム、ウェルネスツーリズム、フードツーリズム（ガストロノミック・ツーリズム）、コンテンツ・ツーリズムなどもよく挙げられる[7)]。観光庁による広義のニューツーリズムによるならば、アート・ツーリズム、ビジネス・ツーリズム、ダーク・ツーリズム、フェスティバル＆イベント・ツーリズム、ゲイ・ツーリズム、ヘリテージ・ツーリズム、先住民ツーリズム、文学ツーリズム、宗教＆スピリチュアル・ツーリズム、ルーラル・ツーリズム、セックス・ツーリズム、スペシャルインタレスト・ツーリズム、スポーツ＆冒険ツーリズム、都市ツーリズムなどを挙げることができよう[8)]。

ニューツーリズムにすでに上記のような多様多彩なツーリズムが研究対象として含まれているところ、吉方旅行をニューツーリズムの一つとして含め、研究対象とすることは十分許容されると考えられる。実際、本稿冒頭で述べたとおり、キーワードを「吉方旅行」とした場合の一般検索サイトの結果は約 868,000 件以上にのぼり、相当な需要があることは明らかである。ニューツーリズム旅行商品の創出・流通が勧奨されていること（国土交通省, 2010 p.5）からも、吉方旅行をニューツーリズムの一つとして含めることは妥当といえる。

したがって、吉方旅行研究もニューツーリズム研究の一つとして認めることができ、本稿では、吉方旅行研究を観光学におけるニューツーリズム研究の一分野として位置付けることとする（村山, 2021 p.iv）。

3. 吉方旅行研究の枠組みの試論

(1) ニューツーリズムの要素・性質

国土交通省（2010）によれば、ニューツーリズムというための要素は、①テーマ性、②体験型の要素、③交流型の要素、で足りる。

中村（2019）によると、①テーマ性、②参加・体験性、

③交流性、④地域性として、地域振興の要素を重視する。ニューツーリズムにおいて、地域振興の要素を重視する考え方は少なくない[9)]。

そこで、本稿でもニューツーリズムとしての吉方旅行の研究枠組みの構造として、①テーマ性、②参加・体験性、③交流性、④地域性を要素とすることを提言する。

(2) 吉方位旅行のニューツーリズムとしての性質の強弱

さて冒頭、本稿における作業用定義として、吉方旅行ないし吉方位旅行とは、「旅行者が自分自身の気を知り、その気と相性のよい気を持った方位へ行くことで、旅行者の運気をあげることができる旅行」（西谷, 2016 p.16）であるとした。

ここで「運気をあげる」とは、「よいことが起こる」といった意味として扱う。この性質を重視して吉方旅行を英訳すれば「ラッキーツーリズム(Lucky Tourism)」といえようか。

次に西谷（2016）によれば、吉方旅行の約束事として、

①旅は必ず自分にとっての吉方位へ行くこと
②移動距離は 100 キロ以上であること
③現地に 3 泊以上すること
④一泊目は 22 時 40 分までに宿泊部屋に入ること
⑤毎日温泉（なければお風呂）に入ること
を掲げている（西谷, 2016 pp.24-25)。

吉方旅行の定義やこれらの約束事と上述のニューツーリズムとしての吉方旅行の研究枠組みの構造に当てはめると、「運気をあげるため」という「テーマ」があり、「現地に 3 泊以上し毎日温泉に入ること」から「参加・体験性、地域性」が認められる一方、「交流を主たる目的としているわけではない」から「交流性」は弱いといえそうである。

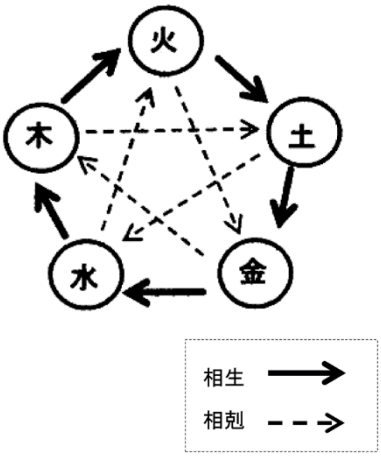
表－1.　吉方位旅行のニューツーリズムとしての性質の強弱

①テーマ性	強い
②参加・体験性	強い
③交流性	弱い
④地域性	強い

(3) 吉方位

吉方旅行の特徴である吉方位はやや難解である。

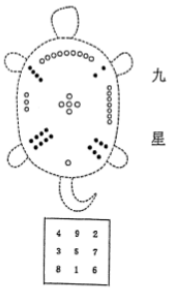
「自分にとっての吉方位」とは、自分の生年月日から、陰陽五行説に基づいて、本命星の気（木火土金水のどれか）を特定し、方位盤において良い相性（相生）の気（木火土金水のどれか）が入っている方位をいう[10)]。



図－1　五行（木火土金水）の関係図
（出典：川合, 2016 p.191）

巽（南東） 四	離（南） 九	坤（南西） 二
震（東） 三	中（中央） 五	兌（西） 七
艮（北西） 八	坎（北） 一	乾（北西）） 六

図－2　方位盤（地盤）に使われる洛書九宮図(太一下行九宮図)（出典：猪野（2010）p.172.をベースに筆者作成。方位盤は南を上に置いて描かれる。）

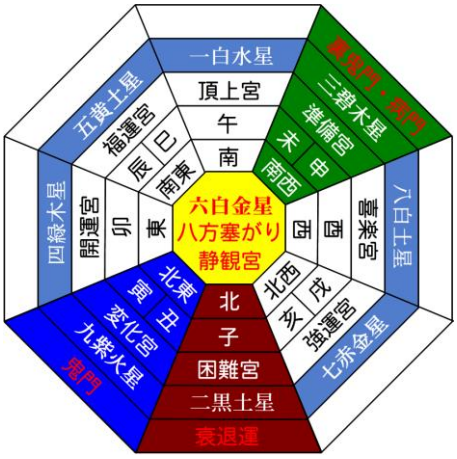


図－3　九星のもととなった「洛書[11)]」
（出典：坂出, 2004 p.7）

例えば、昭和 48 年 7 月 10 日生まれであれば本命星の気は火であり、木の気または土の気が入っている方位が

吉方位となる。

ここでいう方位盤（図-4 参照）は、神社・仏閣で頒布されている「暦」に示されていることが多いから入手は容易である（Michael P.Williams. 2016）。



図－4　令和 3 年の方位盤と九星一覧表
（出典:國領神社　https://kokuryo-jinja.jp/kigan/houi/ (2021 年 11 月 27 日参照)）[12]

最近では、インターネット上で自分の本命星や吉方位を知ることができる。

表－2.　インターネット上で自分の本命星や吉方位を知ることができるサイトの例（出典：筆者作成）

九星気学 LAB（本命星を知ることができる。無料。） http://ninestarlab.com (2021 年 11 月 25 日参照)[13]
あちこち方位（方位を知ることができる。無料。） https://h200.com/houi/ (2021 年 11 月 25 日参照)
吉方位 早楽・地図上 検索システム（本命星と吉方位を知ることができる。有料。） https://hayaraku.com (2021 年 11 月 25 日参照)

(4) 吉方旅行観光商品において想定できる２種類の事業主体

吉方旅行をニューツーリズムの観光商品として捉えた場合、次の２種類の事業主体が想定できる。

・旅行会社　吉方旅行の送り出しの企画運営

吉方旅行は、上記のとおり、旅行者の本命星と吉方位を割り出す作業が比較的面倒なので、旅行会社がビジネスとして企画運営することが想定できる。一方、吉方旅行の約束事は上記 3(2)の①～⑤だけであるので、日時と方位が決定できれば、あとは相当自由な旅行プランを提案できる。

・DMO[14]　吉方旅行を受け入れる企画運営

吉方旅行は、上記の通り、旅行者本人の本命星と吉方位を割り出すことが出発点であるように見えるが、割り出しは機械的、論理的であるため、逆算することが可能である。すなわち、吉方旅行の受け入れ地が吉方位となる旅行者向けに、広告をしたり、誘致のための準備をすることは可能である。とりわけ、吉方旅行の上級者向けの行為として、「お水取り」「お砂とり」「玉埋め」などの方法があり、受け入れ地が例えば「お水取り」をしやすいように湧水を整備し宣伝するなどが想定される。地下水や土砂は、どこでも用意できるから、これといった観光資源がない町でもツーリストディスティネーションになれる。

(5) 研究枠組みとしての吉方旅行の課題

ニューツーリズムに関する先行研究を概観し、本稿におけるこれまでの議論を整理しつつ、研究枠組みの構造要素を検討すると、①定義、②現状、③課題、④事例研究が挙げられ、これはニューツーリズムとしての吉方旅行の研究枠組みとしても支障はなく、援用可能と考えられる。このうち本稿では、作業用定義を用いているが、本格研究をするためには、妥当な資料やデータを用いて学術的な定義づけが必要となろう。現状分析については、吉方旅行のキーワード検索結果が約 868,000 件以上あるので、豊富なデータが見込めそうである。

次に研究枠組みとしての吉方旅行の課題について検討すると、「吉方旅行は性質上、一人旅または本命星が同じ同行者との旅行に限られること」が挙げられる。

旅行事業者として吉方旅行を企画運営する場合、一人旅または本命星が同じ同行者との旅行に限られるという制約がある。ただし、この点は、利点に転換する可能性がある。つまり、本命星が同じ人々は、陰陽五行説における「比和」の関係にあり、団体旅行を企画して、似たもの同士ワイワイと旅行を楽しむことができそうだからである。

この他、吉方旅行の課題は、現状分析から浮かび上が

ることが予想される。

(6) 研究枠組みとしての吉方位旅行の事例研究

筆者には、昭和 48 年 7 月生まれの人（本命星九紫火星）が実践した吉方旅行のデータ集積がある。

平成 28 年 11 月 9 日～　北西吉方位
平成 29 年 9 月 30 日～　西方吉方位
平成 30 年 2 月 17 日～　北東吉方位
平成 30 年 7 月 7 日～　西方吉方位
平成 31 年 5 月 16 日～　南方吉方位
令和 3 年 3 月 7 日～　北西吉方位　など

これらの事例を糸口としてニューツーリズムとしての吉方旅行研究を推進することが可能である。

またニューツーリズムとしての吉方旅行研究についての研究会が発足するなど定着していけば、計画的に実証的な事例研究を行うことも可能である。

4.　結論

以上の分析と考察から、吉方旅行ないし吉方位旅行の研究は、ニューツーリズム研究の一分野として成立しうるといえる。そして、吉方旅行の研究枠組みはニューツーリズム研究の枠組みを援用可能である。さらに、吉方旅行は、特色ある観光資源がない場所においても可能であり、地域振興に貢献できる。

また、吉方旅行の英訳としては、ラッキーツーリズム（Lucky Tourism）を提唱したい。

【補注】

1　陰陽五行説における気。木の気、火の気、土金の気、水の気がある。（川合（2016）p.191.）
2　本稿における作業用定義である（西谷(2016)p.17.参照））
3　なお、山田（2021）p.24、溝尾（2015）p.1 参照。
4　同旨（ツーリズム研究会（2012）p.15.）
5　中村（2019）p.129.を始め、国土交通省（2010）p.2、吉田（2010）p.210、ツーリズム研究会（2012）p.14、佐藤他（2019）p.188、菊池（2008）p.32、岡本(2017)p.14 など。
6　中村（2019）p.22、国土交通省（2010）p.3.-p.4、社会経済生産性本部（2007）p.93.-p.94、吉田（2010）p.211、JTB 総合研究所（2021）p.264.-p.267、貝殻他（2005）p.6.など。
7　ツーリズム研究会（2012）全趣旨、溝尾（2008）p.1、李（2021）p.120、森田（2017）p.61、岡本（2017）p.19.など。
8　小槻他（2014）全趣旨、吉田順一（2008）p.230 など。
9　中村（2019）p.129.など。補注にて既述。
10　西谷（2016）p.17 参照。なお、宮崎（1974）p.42、曽我（2011）p.50.及び長田（2017）p.4.参照。
11　夏王朝の禹王の時に洛水から現れたという亀の甲羅の文様（坂出（2004）p.6）。
12　なお、神宮館編集部（2020）p.3.及び神明館（2019）p.2.参照。）
13　令和 4 年 2 月 9 日現在、九星気学 LAB は更新を停止しており、方位盤を利用できない。
時の九星　keisan 生活や実務に役立つ計算サイト https://keisan.casio.jp/exec/system/1298015429 （2022 年 2 月 9 日参照.)は利用できる。
14　Destination Management Office

【引用・参考文献】

JTB 総合研究所（2021）『観光学基礎』JTB 総合研究所
Michael P. Williams.(2016) Japanese Lacky Almanacs and Their Knockoffs. Scholarly Commons. University of Pennsylvania.
猪野毅（2010）「奇門遁甲の基礎的研究」『研究論集』北海道大学
岡本健（2017）「コンテンツツーリズムと観光・地域創造―地域と物語が織りなす創造型観光のあり方」『メディア・コンテンツツーリズム・セミナー資料』奈良県立大学
小槻文洋他（2014）『観光研究のキーコンセプト』現代図書
貝殻徹他（2005）「エコツーリズムの定義と分類に関する検証」『大手前大学人文学部論集』大手前大学
川合泰代（2016）「日本人の聖地信仰と干支」『E-journal GEO』日本地理学会
菊地俊夫（2008）「地理学におけるルーラルツーリズム研究の展開と可能性 フードツーリズムのフレームワークを援用するために」『地理空間』地理空間学会
国土交通省観光庁観光産業課（2010）『ニューツーリズム旅行商品創出・流通促進ポイント集（平成 21 年度版）国土交通省
坂出祥伸（2004）「講演記録　今でも使われている運勢歴と大雑書のなかの占い：その仕組みを知っていますか。」『関西大学

図書館フォーラム　第 9 巻』関西大学
佐藤浩史他（2019）「コンテンツツーリズムによる地域活性化モデルの探究」『大正大学紀要』大正大学
神宮館編集部（2020）『令和三年神宮館家庭暦』神宮館
神明館（2019）『令和二年庚子年神社暦』神明館
社会経済生産性本部（2007）『レジャー白書 2007』社会経済生産性本部
島川崇（2020）『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房
曽我とも子（2011）「神戸福原における雪見御所（平清盛本邸推定地）についての考察」『岡山大学大学院社会文化学研究所紀要第 31 号』岡山大学
ツーリズム研究会（2012）『ニューツーリズム読本』友月書房
長田直樹（2017）「算博士三善為康について」『数学史研究 No.228』日本数学史学会
中村忠司（2019）「ニューツーリズム」中村忠司他『新・観光学入門』晃洋書房
西谷泰人（2016）『吉方旅行』マガジンハウス
溝尾良隆（2015）『改訂新版　観光学　基本と実践』古今書院
溝尾良隆（2008）「観光資源論　観光対象と資源分類に関する研究」『Josai International University bulletin』城西国際大学
身玉山宗三郎（2018）「インドネシア観光法における「観光」の定義規定からの 観光立国推進基本法における「観光」の定義規定への示唆」『大阪観光大学紀要』大阪観光大学
宮崎 海優 （1974）「日蓮聖人の方位観」『棲神 : 研究紀要』身延山大学
村山貴俊（2021）『観光学概論』創成社
森田浩司（2017）「John Urry 『The Tourist Gaze』 の観点からのウェルネスツーリズムの考察」『大阪観光大学紀要』大阪観光大学
山田良治（2021）『観光を科学する』晃洋書房
吉田順一（2008）「観光創造の方法と方向: ネオツーリズムと文化デザイン」『大交流時代における観光創造』北海道大学
吉田春生（2010）『新しい観光の時代』原書房
李良姫（2021）『観光学入門』渓水社

あちこち方位　https://h200.com/houi/ (2021 年 11 月 25 日参照)
九星気学 LAB　http://ninestarlab.com (2021 年 11 月 25 日参照)
吉方位 早楽・地図上 検索システム https://hayaraku.com (2021 年 11 月 25 日参照)
時の九星　keisan 生活や実務に役立つ計算サイト https://keisan.casio.jp/exec/system/1298015429 (2022 年 02 月 09 日参照)
国領神社　令和 3 年の方位盤と九星一覧表 https://kokuryo-jinja.jp/kigan/houi/ (2021 年 11 月 27 日参照)